あなたを狙う悪質商法
手口を知って、被害を防ごう！

被害減らぬ特殊詐欺 元メンバー巧妙手口明かす

振り込め詐欺など、特殊詐欺―?―の被害が止まらない。警察庁によると、今年1～5月の被害額は約223億円に上った。詐取金を郵便や宅配便、手渡しで受け取るなど巧妙化する手口。「月500万円稼いだこともある」。詐欺グループの元メンバーの男が取材に応じ、その一端を明かした。

現金受け取り 私書箱に郵送
架空名義携帯 毎月買い替え

6月、東京都内の繁華街の外れ。指定された喫茶店の一番奥のテーブル席で、男はせわしなくスマートフォンを操作していた。

毎日スマホでニュースをチェックするのが習慣。「いつ仲間が逮捕されるか分からなかったし、詐欺の手口とか参考にもなった」。年齢は40歳前後か。日焼けサロンで焼いたという浅黒い肌、高級時計やブランド品のバッグが目を引く。

10年以上この「業界」に身を置き、今は詐欺グループを脱退している。「現役の後輩もいるので、詳しくは話せない」と前置きした上で、グループが駆使した手口などを語り始めた。

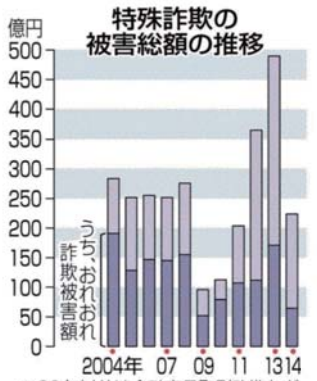
証言によると、だましの電話をかける拠点は、一斉摘発を逃れるため都内のマンションなど数カ所に分散していた。仲間との接触は、目立たぬよう居酒屋の個室などを選ぶ。仲間内で「仕事」の話は極力せず、他のメンバーが何をしているか分からない状態だった。

電話をかける相手のリストは「名簿屋」から1件数十円で入手、1日50人以上に電話をかける。宝くじに当たると偽って情報料を払わせる詐欺では、反応の良い相手には最初、「当せんした」と現金を送って信じ込ませた。「さらにもうけたい」という心理を突き、1人から数百万円をだまし取ったこともある。

身元を隠す工作は徹底していた。他人や架空の名義で契約した「飛ばし携帯」を毎月買い替えながら使う。現金はもっぱら私設の私書箱に送らせた。現金を引き出したり、受け取ったりする「出し子」「受け子」を使うやり方は「足がつく恐れがある」ため避けていた。

「おいしい客は全体の5%に満たない」と話すが、月の稼ぎは多い時1人約500万円に上った。そのうち半分はグループの幹部に渡していたという。

統計上、特殊詐欺による被害額は増加しているが、「周囲で稼いでいる話は聞かず、もう斜陽産業では」と指摘。一方で「おれおれ詐欺が先細りでも、別の手法が考案されるだけ。警察同様、詐欺グループも進化するので被害はなくならない」と断言した。



※09年以前は金融商品取引詐欺などが含まれていない。14年は1～5月

「月500万円稼いだことも」

? 特殊詐欺　親族や警察官を装って現金をだまし取る「おれおれ詐欺」のほか、有料サイトの利用料名目などで現金を要求する「架空請求詐欺」、融資を名目にする「融資保証金詐欺」、医療費の控除を受けられるなどと現金自動預払機（ATM）を操作させてだまし取る「還付金詐欺」の4類型を、警察庁は振り込め詐欺と定義。2010年2月以降は「金融商品取引詐欺」「ギャンブル必勝法情報提供詐欺」など4類型を加え、総称して「特殊詐欺」と呼んでいる。

すべて河北新報に掲載された記事です。

■孫装った振り込め詐欺で200万円被害

涌谷町の80代の無職の女性が26日、振り込め詐欺で現金200万円をだまし取られたと遠田署に届けた。同署によると、24日午後1時半ごろ、孫を装った男から女性宅に「JRに携帯電話や200万円が入った荷物を忘れた」と電話があった。再度、孫を装う男から「いますぐに金が必要なので立て替えて、知人に渡してほしい」と電話があり、金融機関で200万円を引き出して午後4時10分ごろ、同町内で孫の知人と名乗る男に現金を手渡した。

■警官装う詐欺、女性が500万円被害

二本松署は9日、二本松市の80代の無職女性が、成り済まし詐欺で現金500万円をだまし取られたと発表した。同署によると8日午後3時ごろ、同署員を名乗る男から「振り込め詐欺の犯人の中に銀行員がいる。あなたの口座も狙われている」と女性宅に電話があった。その後、日本銀行の行員を名乗る男から「現金を引き出し、当行員に渡して」と電話で指示され、日銀行員と称した男に現金を手渡した。

■息子名乗る振り込め詐欺、780万円被害

仙台南署は26日、仙台市太白区の70代の無職の女性が振り込め詐欺で現金780万円をだまし取られたと発表した。南署によると、19日午前9時半ごろ、息子を名乗る男から女性方に「投資話に乗って会社の金1700万を使ってしまった」という電話があった。その後、弁護士を名乗る男から電話で「息子さんがお金を返さないと事件になる」と言われ、現金を送るよう指示された。女性は市内の金融機関で預金を解約し、780万円を東京都内に宅配便で送った。

ダイヤ購入名目 1000万円詐取被害

白石

白石署は11日、ダイヤモンド購入名目の振り込め詐欺で、白石市の無職女性(84)が現金1000万円をだまし取られたと発表した。

同署によると、1人暮らしの女性宅に3月20日ごろダイヤのパンフレットが突然届き、男から電話で購入予約を持ち掛けられ申し込んだ。その後、販売会社を名乗る男から電話が複数回あり、「私と妻が代金を立て替えたので、内金1000万円を払ってほしい」「買わなかったら裁判になる」と言われ、4月3日に宅配便で東京都港区の指定先に現金を送った。

翌4日に500万円を追加請求され、女性が市内の金融機関で現金を引き出そうとして職員が気付き、被害が発覚した。

▶止めた 振り込め詐欺

感謝状を受け取る（左から）長谷川さん、高橋さん

運転手ら連携 すぐ通報
鳴子署が感謝状贈呈

振り込め詐欺を未然に防いだとして、鳴子署は8日、玉造観光タクシー（大崎市）の運転手長谷川寛さん（69）＝大崎市岩出山＝と、七十七銀行岩出山支店の高橋恵さん(49)＝加美町＝に感謝状を贈った。

同署によると、大崎市の無職女性(81)方に7月30日、銀行員をかたる人物から「手違いでお金を多く振り込んだ。岩出山のスーパーのATM（現金自動預払機）までキャッシュカードを持って来てほしい」と不審な電話があった。

タクシーを呼んだ女性を乗せた長谷川さんが「おかしいので直接銀行に行こう」と岩出山支店に同行。応対した高橋さんが詐欺と判断し、同署に通報した。

贈呈式で佐藤俊幸署長は「地域の連携プレーのたまもの」とたたえた。長谷川さんは「様子がおかしかったので声を掛けたのが良かった」、高橋さんは「今後も被害防止に努めたい」と語った。

おかしいと思ったら！ 角田警察署 ☎63－2211

デスク日誌

紙面を通じて注意を喚起している立場としては、何とも悔しい。電話をかけて現金をだまし取る「振り込め詐欺」など特殊詐欺の被害が増えている。

宮城県警によると、県内のことし1～4月の被害は53件で前年同期の約1・5倍。被害額は2・1倍の2億7000万円に上る。年間被害額が過去最悪の8億円に達した2006年の同期（1億8000万円）を上回る。

担当する宮城県内版では被害発生を事件記事として紹介。被害の未然防止に貢献した関係者に対する警察署の感謝状贈呈も頻繁に掲載している。いずれの記事でも犯行方法に触れ、多様化する手口への注意を促している。

それでも被害は後を絶たない。最近はプロ野球「東北楽天」や「楽天」を名乗る手口が続き、4月下旬には未然に防いだ事例を紹介した。にもかかわらず石巻市の女性が今月、200万円をだまし取られてしまった。

＝詐欺被害＝

被害者の多くは高齢者だ。「新聞を隅から隅まで読んでいる」と言ってくださる読者層と重なる。どう伝えていけば被害防止につながるか、真剣に考えている。（報道部副部長　安野賢吾）

河北春秋

振り込め詐欺の被害が最も少ないのは大阪だと言われる。なぜか。よく分からないものには金を出さないという金銭感覚が理由の一つ。妙な電話がかかってきても「そんな金ないわ、切るで」▼根掘り葉掘り突っ込みを入れる習癖も、被害軽減に役立っているらしい。「なんでやねん」「おかしいやろ」「ほんまかいな」。心理学者西田公昭さんの著書『だましの手口』によれば、ふだんから突っ込みの練習をしておけば、いざという時に役立つ▼とはいうものの、だ。子や孫が泣き声で電話をかけてきたら、気が動転しない自信は誰もが持っているわけではない。平安の歌人藤原兼輔に〈人の親の心は闇にあらねども子を思う道にまどいぬるかな〉。子を思えば理性を失ってしまう…と▼警視庁が振り込め詐欺の容疑で高校生3人を逮捕したという。昨年後半の半年間に、28都道県の被害者から総額4億円を振り込ませていたというからびっくりだ。もっとも、黒幕は別にいて、下っ端の高校生が手にしたのは数百万円らしいが▼振り込め詐欺などの特殊詐欺の被害は、昨年、過去最悪の500億円近く。手口が巧妙化して黒幕にたどり着くのは難しいという。警察の奮起を期待しつつ、私たちも「そんな金ないわ、切るで」の大阪人気質をお手本に。（2014・4・12）

地域で起こった事件を毎日詳しくお伝えする河北新報。犯罪手口をリサーチすれば、被害の防止に役立ちます。

河北新報

角田販売所目黒新聞店
☎63－3154